

調査研究 目的/対象者特性等

明らかにしたいこと

- (1)ゲノム編集食品の安全性は十分に確保されていると国民は感じるのか
- (2)安全性確保に関する情報提供で国民の受容は変化するか
- (3)現在の安全性確認手法に課題や今後取り入れるべき新たな視点はあるか

方法 オンラインアンケート

実施時期	一般消費者 2023年8月	生命科学分野の研究者 2022年9月～2023年7月
対象者	一般消費者 3,022名(20～69歳)	生命科学分野の研究者 256名

ゲノム編集食品の受容度(ベースライン、情報提供媒体閲覧前)

	ゲノム編集食品の受容度(ベースライン、情報提供前)							合計
	1 否定的	2	3	4	5	6	7 肯定的	
一般消費者	290 10%	265 9%	479 16%	1552 51%	265 9%	71 2%	100 3%	3022
生命科学分野の研究者	15 6%	27 11%	37 15%	65 25%	61 24%	19 7%	31 12%	255*
合計	305	292	516	1617	326	90	131	3277

* 生命科学分野の研究者は、欠損のあった1名を除く255名

対象者特性

	一般消費者 n=3022 (%)	生命科学分野の研究者* n=256 (%)
性別		
男性	51	93
女性	49	7
年齢		
20～29	15	2
30～39	18	7
40～49	24	19
50～59	21	39
60～	22	33
医学、薬学、農学、食品学、栄養学分野の学会への所属		
所属している	2	100
所属していない	98	0
生物学に関する知識		
詳しい知識がある	1	20
一般的な知識がある	9	50
あまり知識はない	19	23
全く知識はない	71	7
ゲノム編集技術に関する知識		
詳しい知識がある	1	18
一般的な知識がある	7	53
あまり知識はない	19	29*
全く知識はない	74	29*
事前相談で安全性確認が行われていることを知っていたか？		
知らなかった	71	34
知っていたが内容は知らなかった	25	46
内容まで知っていた	4	20

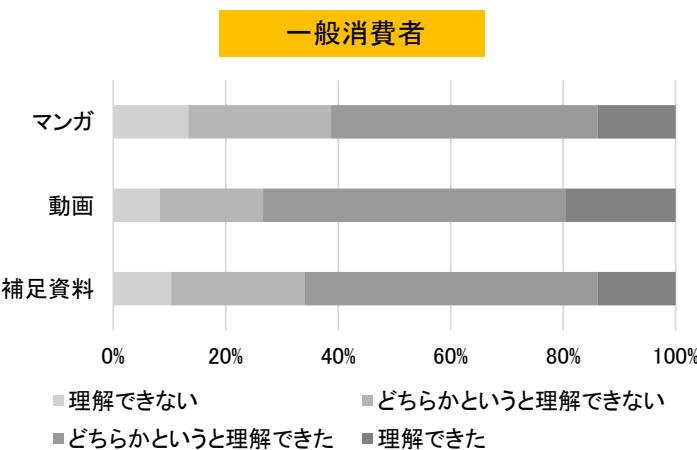
*1 生命が各分野の研究者は医学、薬学、農学、食品学、栄養学分野の学会に所属している者とした

*2 生命科学分野の研究者のゲノム編集技術に関する知識は、詳しい知識がある、一般的な知識がある。ほとんど知識がないの3択で回答を得たため、ほとんど知識がないと回答したものの割合をここに示した

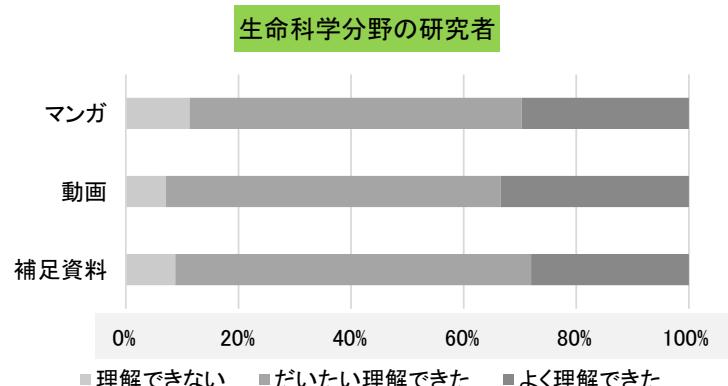
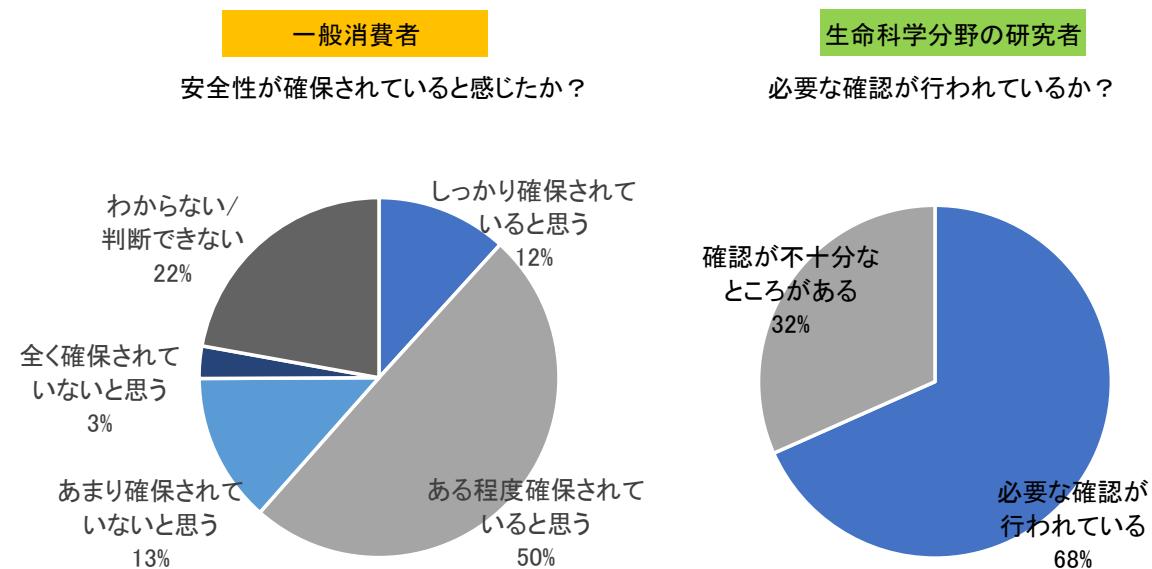
- 事前相談で安全性確認が行われていることはあまり知られていない
- 生命科学分野の研究者でも安全性確認の内容まで知っていたのは20%

調査研究 (1) ゲノム編集食品の安全性は十分に確保されていると国民は感じるのか

情報提供媒体の内容を理解できたか



情報提供媒体閲覧後の安全性確認に関する認識

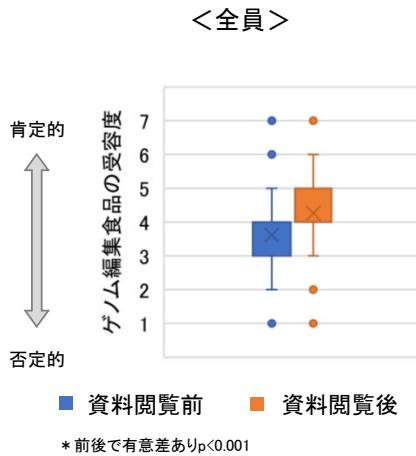


- 一般消費者は6-7割程度、生命科学分野の研究者は9割程度が情報提供媒体を理解できた

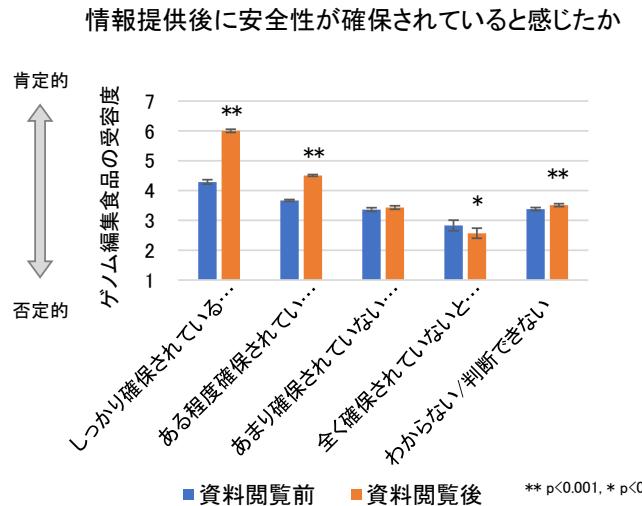
- 一般消費者の62%は安全性がしっかりと/ある程度確保されていると思うと回答した
- 生命が各分野の研究者の68%は必要な確認が行われていると感じた一方、32%は安全性の確認に不十分なところがあると回答した

調査研究 (2) 安全性確保に関する情報提供で国民の受容は変化するか

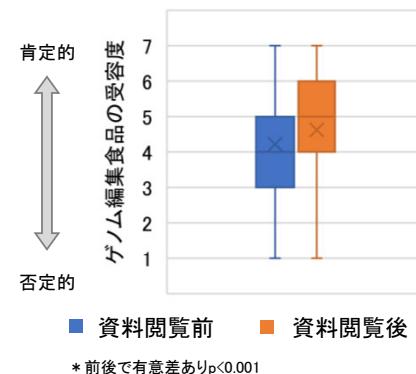
情報提供閲覧前後の受容の変化



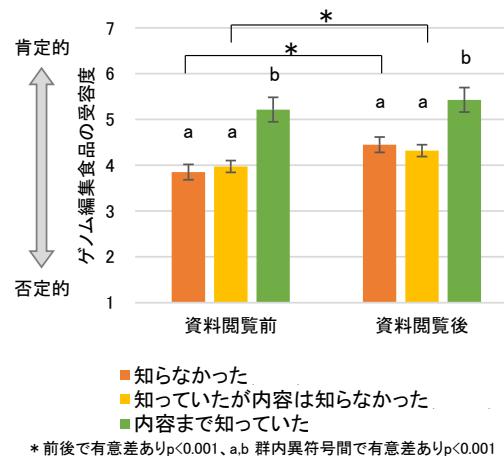
- 安全性確認に関する情報提供で受容は有意に增加了



- 安全性がしっかり/ある程度確保されていると思った群の受容は増加し、全く確保されていないと思った群の受容は減少した



資料閲覧前に安全性確認が行われていたことを知っていたか



- 安全性確認の内容を知っていた群はもともと受容が高かった
- 知らなかつた/内容は知らなかつた群は安全性確認内容を知ることで受容が增加了

調査研究 (3) 現在の安全性確認手法に課題や今後取り入れるべき新たな視点はあるか

現在の安全性確認手法について「確認が不十分なところがある」と回答した生命科学分野の研究者の意見

	意見の総数	内訳
良いと感じた点	7	複数回にわたり安全性の確認を行っている
		複数人で安全性の確認を行っている
		アレルギーに対する確認を行っている
改善すべきと感じた点	27	長期的な安全性の確認が不十分である
		開発者の書類だけでは不十分、第三者が検査すべき
		副次的な影響を確認するための動物実験を行うべき
		サンプル数を増やすべき
取り入れるべき新たな視点	4	代謝系の変化は全てのゲノム編集食品で確認すべき
		多変量解析等、統計解析が使える手法
		AI技術を活用し、代謝マップの変化を判断するようなリスク評価
あるべき姿	11	リソースセンターにサンプルを寄託、研究者データ共有できるようなシステム
		実用化すべきではない
その他コメント	34	安全なもの
		可能な限り情報公開すべきではないか
		ゲノム編集する目的の妥当性を考慮すべきではないか
		届出ではなく安全性審査が必要ではないか

現在の安全性確認手法について「必要な確認が行われている」と回答した生命科学分野の研究者の意見

	意見の総数	内訳
良いと感じた点	33	複数の方法で安全の確認を行っている
		複数回にわたり安全性の確認を行っている
		科学的に説明可能で論理的である
		目的部位以外の遺伝子に影響がないかの確認を行っている
		複数人で安全性の確認を行っている
改善すべきと感じた点	68	手続きが煩雑なため、簡素化、迅速化すべき
		長期的な安全性の確認が不十分である
		生態系への影響も確認すべき
		定期的にチェックを行うべき
		副次的な影響を確認するための動物実験を行うべき
取り入れるべき新たな視点	0	—
あるべき姿	36	安全なもの
		食糧危機の解決に役立つもの
		消費者にメリットがあるもの
その他コメント	69	正しい情報が国民に伝わることが必要ではないか
		可能な限り情報公開すべきではないか
		感情的な配慮はまだ不十分ではないか
		表示を義務化すべきではないか
		責任者を明確にするべきではないか
		違反に対して重い刑罰を設けるべきではないか
		ゲノム編集する目的の妥当性を考慮すべきではないか

- ・ 安全性確認が不十分だと感じた群: 第三者の確認が不足しているとの意見
- ・ 必要な確認が行われていると感じた群: 複数の方法で安全性を確認していることを評価する意見、手続きを簡素化すべきとの意見
- ・ 新たな解析手法等に関する意見はなかった
- ・ 両群: 安全なものを求める意見
- ・ 両群: 正しい情報が公開されることを望む意見